

あぐれむ

vol.17

重陽の節句

九月九日は重陽（ちょうよう）の節句です。中国では奇数は縁起の良い陽の数とされ、一月七日の人日（じんじつ）の節句、三月三日の桃の節句、五月五日の端午の節句、七月七日の七夕に続く五番目の節句で、中でも一番大きな陽の数（奇数）である九が重なる九月九日の節句は特に盛大にお祝いしたそうです。五つある節句の中でも今ではあまり目立たない重陽の節句ですが、別名「菊の節句」とも呼ばれ、平安時代には重陽節として宮中の大切な行事の一つとなり、菊の花を観賞しながら菊酒（菊の花を浮かべた酒）を飲んだり、詩を詠んだり（菊合わせ）して楽しまれ、また江戸時代には品種改良が一気に進み、庶民の間では菊酒を飲みながら持ち寄った菊の花の優劣を競ったりもしたようです。人形を菊で飾る菊人形もこの頃始まったと云われています。菊酒は菊の花には不老長寿の力が宿るとされ、長寿を願って飲まれていました。菊の花といえば皇室を連想される方もいらっしゃるかと思いますが、元は奈良時代に中国からもたらされ、後鳥羽上皇がこよなく愛したために、以来皇室の紋として使用されることになったそうです。

また、旧暦の九月九日はちょうど収穫の時期にあたり、自然の恵みに感謝して菊酒と一緒に栗ご飯を炊いて食べる習慣があったことから「栗の節句」とも呼ばれています。

九月九日は九が重なることから、かつて宮中では「重九（ちょうくう）」と呼ばれ、それが民間に伝わると「お九日（おくにち）」と呼び方が変化し、秋の収穫祭と合わせて祝うようになりました。「長崎おくんち」「唐津おくんち」などもその一例と云われています。

発行／(株)ふるさと葬祭アグレム(事務所)
横手市大雄字本庄道北堰間13
TEL.0182-52-3930
FAX.0182-52-3931
ホームページ
<https://ja-sousai-agulemu.com/>



葬儀に関する不安や悩みはございませんか？

お葬式・法要の無料事前相談実施中

ご家庭の精神的・経済的なご負担を軽減したり、少しでも安心して頂くために、どんな些細なことでもお気軽にご相談ください。

訪問相談も承っております。

手順はとても簡単です。

- ①まずは52-3930までお電話ください。
- ②「訪問相談希望です」とお伝えください。
※訪問日時を決めます。
- ③お約束の日時にスタッフがお伺いします。

- 葬儀の準備には何が必要なの？
- 葬儀の事が何もわからない
- 故人の想いを実現するには？
- 葬儀の費用って実際いくら必要な？

入会隨時受付中



ふるさと葬祭みどりの会

みどりの会はJA葬祭のあんしんネットワーク

「みどりの会」は葬儀全般を安心してまかせられる会員制度です。どなた様でもご入会いただけ、特典も盛りだくさんです。ご入会のお申込み、お問い合わせはお近くのJA各支店または㈱ふるさと葬祭アグレムへ。

- ◆みどりの会は県内におけるご葬儀の施行やご相談なども対応できるJA葬祭ネットワークです。
- ◆先方の風習が分からなくて不安?! そんな時はその地域のプロにおまかせください。

会員特典



- ご葬儀の自宅祭壇貸出料金
.....15%割引



- ギフト
10~20%割引



- 外花環貸出料金
¥16,200→¥14,500(税込)
¥21,600→¥19,000(税込)



- 生花(籠花)料金
¥16,200→¥14,500(税込)
¥21,600→¥19,000(税込)

他にも会員特典盛りだくさん



虹のホールアグレム
よこて

〒013-0069
横手市三枚橋一丁目6-10
TEL.0182-36-3930
FAX.0182-36-3931



虹のホールアグレム
おものがわ

〒013-0208
横手市雄物川町沼館字稻荷前62
TEL.0182-56-2630
FAX.0182-23-1220

Information

会員の皆様
年忌にあたって
いませんか？

ふるさと葬祭アグレムでは一周忌法要にあわせて封書にてご案内をさせていただいております。ご利用割引券など同封しておりますので、お気軽にご連絡ください。

ご意見ご感想

この広報誌についてのご意見ご感想、掲載してほしいことなどございましたら
(株)ふるさと葬祭アグレム<担当・杉田>まで

提案します。安心・まごころ葬儀
株)ふるさと葬祭アグレム
〒013-0345 横手市大雄字本庄道北堰間13
TEL.0182-52-3930/FAX.0182-52-3931
24時間受付 年中無休 フリーダイヤル
0120-87-2630

パートタイマー
随時募集中

業務内容 > 新規会員募集
詳しくはふるさと葬祭アグレム
(TEL.0182-52-3930)
までお問い合わせ下さい。

第6回特別講演会

生死(いきたひ)

去る4月21日 横手市三枚橋の虹のホール アグレムに於きまして、ドキュメンタリー映画「生死(いきたひ)」～看取り・命のバトン～の上映会と監督・脚本・音楽を手掛けられた長谷川ひろ子監督（横手市生まれ）をお招きしての講演会を開催いたしました。

当日は朝から晴天に恵まれ、桜の花が一齊に咲き始めた春の陽気の中、100名を超える皆様が会場にお越しくださいました。



(株)ふるさと葬祭アグレム 人形供養祭

大切にしていたお人形、ぬいぐるみなど丁寧にご供養いたします

参加無料

10/14
(日)

受付 9:00～

供養開始 11:00

会場

虹のホールアグレム よこて
横手市三枚橋一丁目6-10 TEL.0182-36-3930



日頃の感謝をこめて、今年もさまざまな企画をご用意致しました。

ご近所お説教あわせの上、是非ご参加ください。

供養終了後、恒例となりました**会員様限定の大抽選会**を行います。

同封いたしました**抽選券**を当日受付までお持ちください。

当日のご入会も
承ります



虹のホールアグレム 三枚橋
横手市横手町字下飛瀬201

オープン前のホールをご見学いただけます。
ぜひ、お気軽にお越しください。

10/14
(日)
9:00～16:00

内覧会開催

この映画は長谷川ひろ子監督の夫である薬学博士長谷川秀夫氏が47歳で耳下腺癌により余命半年の宣告を受け、癌から生還した際の闘病の記録として残す為に撮影した映像を中心に、看取り士の活動や実際に自宅で家族を看取った方々へのインタビューを交えたドキュメンタリー映画です。



2015年から全国各地で上映会が開催されており、その回数は2018年4月21日時点で280回を超えております。昨年NHKでも取り上げられましたので、記憶にある方もいらっしゃるかもしれません。

今回の秋田県では2回目の上映会で、ご自身の出生地での開催が実現したことに感慨もひとしおのご様子でした。

上映後に行われた講演ではまず「生死(いきたひ)」というタイト

に残す。上手に世代交代をしていくと言ふ意味が込められているそうく。

亡くなる1ヵ月半前くらいは、「人生の最終章」であり、心を軽くしていく期間であると同時に看

てあげられる方がどれだけ安心させてあげられるか、どれだけ幸せな気持ちでお別れをしてあげられるかということが大切であるといふことでした。

また、「生前四十九日」についてもお話をされました。

亡くなる1ヵ月半前くらいは、「人生の最終章」であり、心を軽くしていく期間であると同時に看てあげられる方がどれだけ安心させてあげられるか、どれだけ幸せな気持ちでお別れをしてあげられるかということが大切であるといふことでした。

今回の映画上映・講演会を通じて、私達も葬儀に立ち会うものとして非常に考えさせられるものとなりました。

- 「行きたい」。何処に向かって行きたいのか、自分の尊厳を持つて意志を貫いて行きたいというベクトル。
- 「生きた日」。朝が始まり、夜眠ることで一生のうちの一日が終わる。生きている人は次の朝を迎えることができるが、亡くなると迎えることができないの
- 「生きた灯」。老いに嘆かず、生きた灯（ともしび）を後世に生きたい。

